



「がんプロフェッショナル養成プラン(平成19年度選定分)」
秋田大学・弘前大学・岩手医科大学・岩手県立大学

『北東北における総合的がん専門医療人の養成』

〈公開シンポジウム〉
どうする今後の北東北の
がん専門医療人養成

講演会プログラム

日時

2011.
8 | 20.SAT 14:30~

会場

盛岡・アイーナいわて
県民情報交流センター
8階会議室(804号室)

公開 シンポジウム

どうする今後の北東北の がん専門医療人養成



「がんプロフェッショナル養成プラン(平成19年度選定分)」
秋田大学・弘前大学・岩手医科大学・岩手県立大学
『北東北における総合的がん専門医療人の養成』

シンポジウム 『どうする今後の北東北のがん専門医療人養成』の 開催にあたり

『がんプロフェッショナル養成プラン:北東北における総合的がん専門医療人の養成』は、がん死亡率が最も高いといわれ、医療過疎地域を多く抱えている北東北(秋田県、青森県、岩手県)において、がん診療に従事する総合的がん専門医療人を養成し、北東北のがん診療の改善に貢献することを目指す3医学系研究科と1看護学研究科が中心となる取り組みであります。

青森、岩手、秋田の3県は36,500km²の広大な地域(国土の9.5%)に377万人(総人口の3%)が居住するにすぎません。(ちなみに四国の面積は18,800km²です。北東北3県で四国2倍の面積をカバーする必要があります。)このように北東北は地理的、人材的にもがん医療にとどまらず医療全体に非常に苦しい状況であります。さらに東日本大震災が追い打ちをかけ私どもを苦しめています。しかしながら、がんに苦しむ患者さんやがん死者数も確実に増えており、がん医療の向上は喫緊の課題であります。

このような状況下で、私どもの『北東北がんプロ』は顕著とは言えないまでも着実に成果をあげているのでは、という感触を持っています。しかしながら、この『がんプロフェッショナル養成プラン』は2011年が最終年度であります。これからの“北東北のがん医療”をどうするのか、とくに北東北で“がん専門医療人”をどう育成していくのか、という問題は日本の中でも最も大きな課題ではないかと考えています。

今回、『がんプロフェッショナル養成プラン』やがん医療や医療人の教育で活躍されている先生のご意見を伺い、議論を深めたいと思い、『どうする今後の北東北のがん専門医療人養成』というテーマでシンポジウムを開催させていただきます。皆さまの活発なご意見により、有意義でインパクトのあるシンポジウムになることと信じています。

秋田大学大学院医学系研究科腎泌尿器科学講座 教授 羽瀧友則

【担当大学】

秋田大学大学院医学系研究科

弘前大学大学院医学研究科

岩手医科大学大学院医学研究科

岩手県立大学大学院看護学研究科

司会：羽瀨 友則（秋田大学大学院医学系研究科腎泌尿器科学講座 教授）

開会の挨拶：小川 彰（岩手医科大学 学長）

- 1  『がんプロフェッショナル養成プランの現状について』
村田 善則 氏
（文部科学省高等教育局 医学教育課長）
- 2  『北東北がんプロフェッショナル養成プラン第1期5年間の終了に臨んで』
—北東北地方のがん治療に与えた成果と将来展望—
柴田 浩行 氏
（秋田大学大学院医学系研究科臨床腫瘍学講座 教授）
- 3  『がんプロフェッショナルのあるべき姿とは』
—日常診療を通して見えてきたもの—
加藤 誠之 氏
（岩手県立中央病院がん化学療法科 科長）
- 4  『がん撲滅にはチーム医療人の専門力発揮が鍵』
—がん看護専門看護師は地域・住民との絆で専門能力倍増を!!』
佐藤 禮子 氏
（兵庫医療大学 副学長）
- 5  『私が考える良い医療環境』
工藤 恵子 氏
（秋田県がん患者団体連絡協議会 きぼうの虹）
- 6  『東北がんプロフェッショナル養成プランの成果と課題』
石岡 千加史 氏
（東北大学 加齢医学研究所 臨床腫瘍学分野 教授）
- 7  『がん医療人の温故創新』
樋野 興夫 氏
（順天堂大学医学部病理・腫瘍学 教授）
- 8  『静岡がんセンターにおけるがん専門医療人材の育成』
山口 建 氏
（静岡県立静岡がんセンター 総長）

（各 講演15分 + 質疑応答5分）

閉会の挨拶：西條 康夫（弘前大学大学院医学研究科腫瘍内科学講座 教授）

